

1-13 燃料電池自動車導入推進事業

事業目的

燃料電池自動車(FCV)の初期需要の創出のため、導入支援策を設けるとともに、FCVの利用機会の拡大や認知度の向上に向け、公用車として導入したFCVを活用して幅広く普及啓発活動を進めていきます。

事業効果

CO₂年削減効果

70t-CO₂※

※ 二酸化炭素の削減効果はスマート水素ステーションから公用車(5台)へ水素を充填すると想定削減量

事業内容

●平成28年度事業費 17,473千円(うち環境税充当額 17,473千円)

●事業概要

(1)FCV導入促進補助事業

県民・法人等のFCV等導入に係る経費の一部を補助

[補助内容]

FCV 国補助額の1/2を補助(MIRAIの場合上限101万円)

外部給電機器 導入費用の1/2を補助(上限60万円)

(2)FCV公用車による普及啓発事業

県民のFCV認知度の向上やFCV利用機会の拡大のため、公用車として導入したFCVを活用して、各種イベントでの展示、試乗会の実施、貸出等を実施

FCV補助を適用した場合の購入額負担

(単位:万円)

| 国 | 県 | 本人負担 |
|-----|-----|-------|
| 202 | 101 | 420.6 |

※上記の額はトヨタMIRAI(税込723.6万円)の場合

◆燃料電池自動車(FCV)の特徴

- 車載タンクに充填された水素と空気中の酸素の化学反応によって発生した電気駆動する自動車。
- エネルギー効率が高く、走行時に二酸化炭素や有害ガスを排出しないため、環境負荷の低減に貢献。
- 燃料充填時間や航続距離の面で、ガソリン自動車と同等の使い方が可能。
- 外部給電機器と接続することで、大容量の電力を外部の電化製品等に供給することが可能で、非常時対応等に期待。

県民に水素エネルギーを身近に感じてもらえるよう、FCVを「見て」「触れて」「乗って」いただける機会を数多く設けていきます。

(主な活用方策)

- ・ 県主催イベントでの展示、県民試乗会の開催、県民への一般貸出
- ・ 県内市町村・団体の主催するイベントへの貸出
- ・ 東北各県が主催するイベントへの貸出



トヨタ自動車 MIRAI



外部給電機器



本田技研工業
CLARITY FUEL CELL